

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077300244
法人名	有限会社 ひがし
事業所名	グループホーム たかみ
所在地	福岡県うきは市高見1750-1 (電話) 0943-77-3040

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	20年 12月 12日
評価確定日	21年 2月 13日

【情報提供票より】(平成20年 11月 27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	15 人
常勤	12人
非常勤	3人
常勤換算	11.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての ~ 1, 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,400 円	その他の経費(月額)	9,150 円	
敷金	有() 円	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	(有) (100,000 円)	有りの場合償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年 11月 27日現)

利用者人数	15 名	男性	7 名	女性	8 名
要介護1	8 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2			
年齢	平均 88 歳	最低	76 歳	最高	76 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	筑後川温泉病院 上田内科胃腸科医院 中村歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、一方がJR沿線、もう一方が川になっている場所にあり、2階建ての優しい色彩の建物である。線路の先には田園が広がり利用者の毎日の格好の散歩道となっている。事業所の菜園では大根、高菜、ほうれん草、白菜、人参等が作られており、利用者の日々の食卓へ上がったリ漬物にし、利用者の喜びとなっている。利用者の表情は穏やかで、安心した生活があることが伺える。職員の連携も良くとれており、希望があれば一日に何度でも散歩に行く等、その人のペースに合わせ人権を尊重し、理念に基づいたケアにあたっている事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題については具体的に改善計画を立て、「研修記録の適切な対処」「職員のペースより利用者本意」や「防災訓練を年2回とする」等改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員がそれぞれ分担して考え、管理者が全体を集約し作り上げている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者の状況、事業所の活動及び外部評価についても報告し、委員から意見や希望を聴くようにしている。委員から地域のふれあい祭りに参加してはどうかとの意見をもらい、参加できるように働きかけるなど、意見を運営に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	意見箱を設置しており、来訪時には声かけする等積極的に家族等の意見、不満、苦情等を聴取するよう努めている。第三者相談窓口を利用時に説明し、ポスターを玄関に掲示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	事業所便りを小中学校、派出所、JA、区長、民生委員や近隣住民へ配布している。近隣中学生の職場体験学習を受け入れている。また夏祭りや餅つき時に地域住民の参加を呼びかけたり、地域のふれあい祭りに参加希望を出すなど、積極的に働きかけている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型の視点を含んだ事業所独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向け言葉かけ、態度などで取り組んでいる。理念をホールの見やすい場所に見やすい文字で掲示している。	○	全職員で理念を確認・共有する具体的な取り組みを行ってほしい。
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所便りを小中学校、派出所、JA、区長、民生委員や近隣住民へ配布している。近隣中学生の職場体験学習を受け入れている。また夏祭りや餅つき時に地域住民の参加を呼びかけたり、地域のふれあい祭りに参加希望を出すなど、積極的に働きかけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員がそれぞれに分担して考え、管理者が全体を集約し作成した。前回の改善課題については、具体的に改善計画を立て「研修記録の適切な対処」「職員のペースより利用者本意」や「防災訓練を年2回とする」等改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、利用者の状況や活動状況及び外部評価についても報告し、委員から意見や要望を聴取するよう努めている。委員から地域のふれあい祭りに参加したらどうかとの意見を貰い、参加できるよう働きかけを行った。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所は行政担当者と日常的に連携をとり、認知症についての話をするなど、事業所で出来ることは協力したい旨を伝えている。</p>		
7	10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修を受講した職員が、その資料を基に毎月の定例会議時に伝達講習をしている。利用者・家族等には利用時に制度の説明をしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回の事業所便りと併せて、担当職員作成の手紙を送付している。家族等の来訪時には暮らしぶりや健康状態等を報告し、緊急時には電話で状況報告や連絡をしている。金銭管理については、金銭出納帳を提示し、報告している。</p>		
9	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置し、来訪時には声かけする等、積極的に家族等の意見、不満、苦情を聴取するよう努めている。第三者相談窓口を利用時に説明し、玄関にはポスターを掲示している。</p>		
10	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者は職員の移動による弊害を理解しており、異動を最小限に抑えるよう努力し、また代わる場合は引継ぎの体制を考慮している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用にあたっては公平性を持ち、性別や年齢で採用対象から排除しないようにしている。職員が生き生きと働きながら社会参加や自己実現ができるよう環境づくりを図っている。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>管理者は人権教育・啓発活動に取り組み、全職員で人権に関する学習会を行っている。事業所に人権テキスト・パンフレットを整備し、研修記録もある。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は研修案内を掲示し日常的に学ぶことを推進している。研修内容については全職員が共有出来るように伝達研修をしている。当事業所で1～2ヶ月毎に行っているグループホーム部会に、職員は参加している。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者ネットワークに加入し、介護サービス事業連絡会グループホーム部会へ管理者、職員が参加し、また、同業者との視察研修を行う等して交流を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に事業所の見学や体験利用、自宅訪問等を行い、馴染みの関係を築くよう、家族等と相談しながら工夫している。即利用となった場合は、利用者に安心感を与えるよう配慮している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>料理や掃除等共に行い、漬物漬けや畑仕事等職員が知らない生活の技を教えてもらい、雑巾縫い等利用者の得意分野で力を発揮してもらいながら、職員と利用者が共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は日々の関わりの中で利用者に声をかけ、一人ひとりの思いや意向にそって支援している。また意思疎通の困難な利用者には、表情や行動などから利用者の思いなどを把握している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当制にし、利用者の生活歴・家族の思いや意向及び全職員の気づきを取り入れ作成している。本人本位の具体的な介護計画を作成し、家族へ説明を行い、同意の押印をもらっている。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月、または6ヶ月に1回の見直しと、状態変化や状況に応じて随時見直しを行い、家族等へ連絡している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者が入院した際は、利用者を見舞いながら本人・家族・医療機関と連携し早期退院に取り組んでいる。往診もあるが、送迎等の必要な支援は家族等の状況に応じて柔軟に対応している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族等の希望を大切にし、いつでも適切な医療が受けられるように支援している。受診時の通院介助は基本的には家族が行うようにしているが、家族が出来ないときは職員が支援し、結果を家族に報告している。</p>		
22	49	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期についての方針はまだ定まっておらず、本人・家族・医療機関・事業所との連携の話し合いまでには至っていない。</p>	○	<p>本人や家族等の意向、本人にとってどうあったら良いのか等、事業所が対応しうる最大の支援方法をふまえ、重度化や終末期の対応について、方針を定め、関係者で共有を図ってほしい。</p>
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>研修等で全職員の意識化を図り、諸場面での声かけや対応については、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう配慮しケアを実践している。</p>		
24	54	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>買い物や散歩など一人ひとりのペースを大切に希望にそって支援している。利用者は見守られながら、タバコ、晩酌もたしなむ事が出来る。</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者と職員と一緒に食事の準備を行い、同じものを同じテーブルで楽しく食べている。自分たちで育て収穫した野菜が調理され、食卓に上がり、楽しい話題となっている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>毎日、午後から入浴を行い、利用者の希望に応じて、一人ひとりの意向を大切にしながら入浴出来るように支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者の生活歴や趣味を把握し、洗濯物たたみ・読書・習字・カラオケ・雑巾縫い・漬物付けなど役割や楽しみごとも含めて支援している。自室にそれぞれ箒を用意し、自発的に自室の掃除をされる利用者もある。</p>		
28	63	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>利用者の状況や希望、天候等に配慮して概ね毎日の散歩や買い物、月1回のドライブやドライブ時の夕食等、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中、居室や玄関は施錠していない。玄関にはチャイムを設置している。全職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、利用者の外出傾向を把握し、外出時には見守りや付き添いを行っている。</p>		
30	73	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>マニュアルを整備し、年2回消防署の協力を得て避難訓練を実施している。非常用食糧や飲料水を準備している。</p>	○	<p>地域の住民にも、参加・協力の依頼を行ってほしい。また、非常用の備品も準備してほしい。</p>

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量及び水分摂取量の記録が全利用者分ある。メニューは職員が利用者の嗜好を考慮し、塩分、食事のバランスなど食事についての勉強を積極的に行い、作成している。1ユニットでは献立意見箱を設置している。</p>	○	<p>最低年1回は栄養士等による専門的アドバイスやチェックを受け、利用者の健康管理に努めてほしい。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ゆとりのある生活感を感じさせる共有空間になっている。床暖房と自然採光の中で、利用者はソファーや畳の間に寛いでいる。壁面等には季節の飾りつけがされ季節感も演出しており、心地よく過ごせる工夫をしている。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者は使い慣れたベッド、布団、整理ダンス等馴染みものを持ち込み、写真や自分の手作りカレンダー、中学生からの手紙などを貼っている。カーテンはそれぞれ好みのものをかけ居心地よく過ごせるようにしている。</p>		

※ は、重点項目。